基本計画（案）の策定にあたって

基本構想

まちの将来像

自然に抱かれた多様性・創造性で未来が輝くまち　とよの

１０年後の目標人口　１５，０００人維持　をめざす

基本指針１	基本指針２	基本指針３
住民主役のまちを作り出す“ひとづくり”	未来の活力を生み出す“しごとづくり”	緑の中で楽しく暮らせる“まちづくり”

12 の基本施策

基本指針１	１．まちを好きと思ってもらえる移住・定住促進 ２．まちの未来につながる教育の推進 ３．安心して子どもが産める環境づくり ４．いつでも生きがいがもてる健康寿命延伸
基本指針２	５．地域産業を元気にする６次産業化 ６．まちで働く人を応援 ７．地域経済を循環させる ８．人や仕事を呼び込むテレワークの推進
基本指針３	９．人が活躍できる地域コミュニティづくり 10．低炭素社会の実現による持続可能なまちづくり 11．交流人口の増加で新たな風土づくり 12．住民の QoL 向上をめざしたコンパクトなまちづくり

基本計画

【横軸】先導的な役割を持つ考え方の中心軸

都市×里山による魅力づくり

現在の豊能町は、新興住宅地と農村それぞれで施策に取り組んでいる、いわば東西に二極化の町ですが、それではどこにでもある特色のない町でしかありません。

しかし、西地区の魅力と東地区の魅力を融合することで、新興住宅地でも、農村でもない、豊能町オリジナルの価値や生活像を作り出していきます。

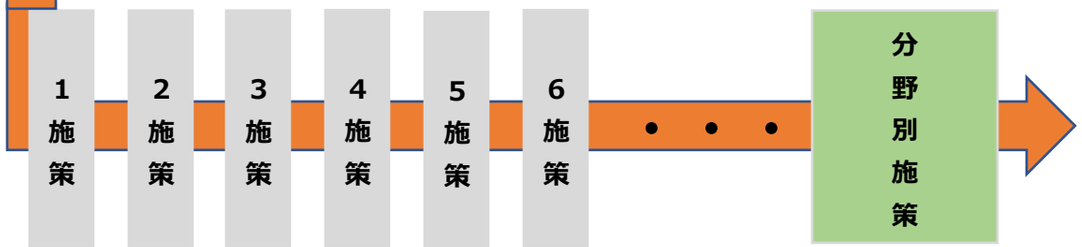
新しい生活･仕事スタイルへの挑戦

「新しい価値」を創出するには、これまでの既成概念を打ち破り新しい視点、新しい考え方、新しい力など、今までにない様々な「新しい」が必要になります。

時には大胆に、義務教育の枠を超えた教育や新しい生活スタイルを取り入れた東地区の再開発、街のインフラとして開発、実用化される先端技術の活用など、新しいことへ積極的に挑戦していきます。

新しいまちづくりのスタイルの創造

住んでいる人、これから住もうと考えている人、ただ訪れるだけの人など様々な人が町と関わりを持っています。そのすべての人に町を好きになってもらうためには、豊能の新しい生活・仕事のスタイルを一緒に作り上げていく必要があります。

公園、施設など身近な生活空間をリノベーションすることで新しい憩いの場となり、そこに集う人たちとふれ合うことで町のことに興味を持ち、また訪れる。そんな新しい生活・仕事のスタイルを産官学など様々なステークホルダーと一緒に作り上げていきます。

【縦軸】すべての施策を体系的に網羅